

平成31年（令和元年）度 大阪府立芦間高等学校 第3回 学校運営協議会

日時 令和2年2月15日（土） 13時00分～15時00分
場所 本校1階 校長室

構成員 <協議会委員>
 笹山 幸子 元府立高等学校長
 竹本 剛 P T A会長
 高松 真由美 後援会会長
 田中 常雄 守口市立第一中学校 校長
 宮坂 政宏 週刊教育P R O 編集委員
 山崎 裕也 スクールI E (学習塾) エリアマネージャー
 <事務局>
 東崎 浩 教頭
 菊地 淳 事務長
 亀井 絵里 首席 兼 総務文化部長
 塩崎 靖子 首席 兼 教務主任
 武田 真貴子 生徒指導主事
 諸木 忠治 進路指導主事
 丸山 清美 保健主事
 甲斐 徹 情報部長
 北野 早苗 第1学年主任
 小原 浩昭 第2学年主任
 角山 愉紀雄 第3学年主任
 水嶋 育美 共生推進委員長
 亀元 政志 校長

配付資料 ○平成31年（令和元年）度 第2回学校協議会議事録
 ○平成31年（令和元年）度 学校経営計画及び学校評価
 ○令和2年度 学校経営計画及び学校評価
 ○平成31年（令和元年）度 学校教育自己診断の集計結果
 ○平成31年（令和元年）度 第2回授業アンケートの集計結果
 ○平成31年（令和元年）度 第2回勉強アンケートの集計結果

内 容

(1) 校長挨拶

(2) 報告・説明

- [1] 平成31年（令和元年）度学校教育自己診断の集計結果等について
- [2] 平成31年（令和元年）度第2回授業アンケートの集計結果等について
- [3] 平成31年（令和元年）度第2回勉強アンケートの集計結果等について
- [4] 平成31年（令和元年）度学校評価（学校経営計画の達成状況）について
以上、教頭より
- [5] 令和2年度学校経営計画について
以上、校長より

(3) 協議

- [1] 平成31年（令和元年）度学校評価について

（委員）学校に対する満足度は低いがこれは生徒の期待度により変わるため、指標になりにくい。質問の仕方に工夫が必要である。
気になるのは、授業アンケートや勉強アンケートの結果から予習・復習をしてきていない点である。主体的に授業に参加するという姿勢がなければ数値は低くなる。遅刻も学びに向かう姿勢のバロメータになる。学校に来て、朝から頑張るモチベーションを高めるように、遅刻の件数を少なくするほうがいい。

生徒指導の項目については生徒と保護者の意見が異なる。組織的な公正さがモチベーションにつながるので現在の生徒指導が公正であることを理解させたほうがいい。

- (委員) 進路指導の満足度については十分高い水準になっている。難関・中堅私立大学の合格状況については他校と比較される基準になっているので結果が求められる。勉強アンケート「授業中、何故そういう答えになるのか、その理由や解き方を理解しようとしている。」の値が低いのも進学型を名乗るのであれば改善の工夫が必要である。
- (委員) 学校教育自己診断の保護者の回答率が非常に高い。保護者に理解されている結果といえる。
- (委員) 自己診断に「教育方針が理解できているか」という項目があるが生徒にとってはなかなか残りにくいものである。わかりやすくした言葉を集会のたびに何回か繰り返すことが必要である。
働き方改革に関わって、職員会議10分縮める方策はあるのか。
- (委員) 遅刻の回数を減らすには保護者の協力が必要である。高校生になると生徒に任せきりになる保護者も多いのではないかと。他校と比較されるところがあるが、学校の雰囲気、信頼については生徒より保護者が敏感である。風紀、遅刻、挨拶の部分で自信をもって押せることが大事である。
- (委員) 通学している生徒を見ていい雰囲気の学校だと感じている。授業改善については、人を育てるという立場に立って、先生が一枚岩になって改善を進めなければならない。少人数授業も効果があるという共通認識が必要である。
いじめ防止については、いじめを0にするというより、いじめはあるものだという認識に立って、解決に力を入れるべきである。
- (委員) 3年間の学力の推移が知りたい。生徒の学力向上には、授業中の学習は当然であるが、授業以外の部分の努力が必要である。授業だけでは難関大学は難しい。
- (事務局) スタディサポートで推移を見ることはできるが、今年度より、英語のリスニングと記述を加えたので、従来のものとは比較できない。学力の推移は進路指導部と連携して見られたらいいと思う。そのために、1・2年生で模擬試験を受ける必要があるが、来年度から校内模試ができなくなった。
- (委員) 学校で作成した模擬試験はどうか。
- (事務局) 総合学科の問題点で、生徒の選択がバラバラなので難しい。
- (委員) 生徒が現状を理解していないと進路指導は難しい。卒業生の体験談を聞いてもらうこともいいのではないかと。
- (委員) 高校の先生が、出前授業で中学校へ行くことも広報につながると思う。
- (事務局) すでに数校に出向いている。芦間高校の特色ある科目、看護や英語、美術の授業で芦間高校の特色をアピールしている。

[2] 令和2年度学校経営計画について

- (委員) すべてのことをするに越したことはないが、優先順位を決めて、特に重点を置く項目を決めておくほうがいい。芦間高校の強みを伸ばすことが重要。
- (委員) 家庭での学習時間の充実の問題点は、「学びに向かう力」がないと難しい。塾に行っても「やらされ感」でやっているとうり向上しない。また、アルバイトで社会経験が豊かになるわけではない。自分で時間のマネジメントができない中でアルバイトに時間を取られることは問題である。
今回の学習指導要領の改訂で強調されているのはカリキュラムマネジメント。目標と要素があってそのつながりをどうするのかということを整理してカリキュラムを作成するべきである。
- (委員) 芦間高校にはいじめがないというイメージがある。いじめに対する取り組みはどうか
- (事務局) いじめ防止対策委員会が対応している。いじめの情報が入ったらすぐに集まって、情報共有、対応を行っている。いじめはないわけではないが、できるだけ迅速に対応をしている。

(事務局)「産業社会と人間」で10年以上ピアサポートに取り組んでいる。多くの中学校から生徒が来ているので、生徒のつながりを育てている。

(委員)いじめについては理解するだけではなく行動することが大切である。いじめは必ずあるものだと考えたうえで行動することで止めることができる。

(委員)遅刻の対策として、他校では保護者が子どもたちの前で話をしているところがあった。遅刻というのはお金にもかかわるといふこと、信頼も失うといふことを理解させる必要がある。アルバイトで夜更かしをすることも関連があるかもしれない。

(委員)他校で生徒と先生と一緒に掃除をしながら話をして効果があったと聞いている。

(事務局)本校でも行っている。

(事務局)授業に影響のないSHR時の遅刻が多い。自転車通学が多いので急ぐことで自転車事故につながることを恐れている。時間に余裕をもって登校してほしい。

令和2年度学校経営計画について、一部修正のうえ承認をいただいた。

(4) 校長挨拶

- ・令和2年度の学校運営協議会委員委嘱について